



鏡像関係の經典：

『佛☒罪福報應經』と『太上☒轉輪五道宿命因緣經』初探

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-03-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 池平, 紀子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24729/00017289

鏡像關係の經典

— 『佛說罪福報應經』と『太上說轉輪五道宿命因緣經』初探—

池平紀子

はじめに

本稿にいわゆる「鏡像關係の經典」とは、「鏡像のような対稱性を持つ、類似した佛敎經典と道教經典」を意味する。週知の通り、多くの道教文獻はその内容に佛敎の影響が見られるが、本稿が指す「鏡像關係」とは、単に内容に影響が見られるというだけでなく、文章の字句や體裁にも類似性のある緊密な關係をいう¹。

佛敎經典の『佛說罪福報應經』と道教經典『太上說轉輪五道宿命因緣經』との間に鏡像關係があることについては、これまでほとんど先行研究がないため²、本稿では兩經典の鏡像關係について、まずは兩經典の成立時期を中心に初歩的探求を行いたい。

一、兩經典の内容概観

『佛說罪福報應經』は、現在、『大正新修大藏經』第17冊經集部（T17n0747-562b³）に収録されている。梵本・パーリ本・チベット本は無い⁴。大藏經本の底本である高麗版

* 本稿は『道教學刊』2020年第1輯〔總第5輯〕（社会科学文獻出版社、北京）に中国語にて掲載した「鏡像关系的经典—《佛说罪福报应经》和《太上说转轮五道宿命因缘经》初探—」を日本語に翻譯し、当該雜誌と本誌の兩編集者に許可を得た上で掲載するものである。

1 例えば『提謂經』と『太上老君戒經』、『佛說三廚經』と『老子說五廚經』、『佛說父母恩重經』と『太上老君說報父母恩重經』等。牧田諦亮『疑經研究』（京都：京都大學人文科學研究所、1976年）、Christine Mollier, *Buddhism and Taoism FACE TO FACE*, Honolulu, University of Hawaii Press, 2008、池平紀子「道教と中國撰述經典」（『道教研究の最先端』東京：大河書房、2006年）、同「長生法と悟り—『佛說三廚經』と『老子說五廚經註』—」（『東方宗教』第100號、日本道教學會、2002年）、同「儒敎に妥協した佛敎—『父母恩重經』と『提謂經』」（『知のユーラシア3 激突と調和 儒敎の眺望』（東京：明治書院、2013年）等參考。

2 John Lagerwey「太上說轉輪五道宿命因緣經」項（*The Daoist Cannon* [道藏通考], The University of Chicago Press, pp537, 2004年）參考。ただこの解題では『佛說罪福報應經』との關係は述べられていない。

3 「T17n0747-562b」は『大正新修大藏經』第17冊、經典番号747、第562頁、中段を表す。經典番号は2回目以降は省略する。以下同じ。

の経題は『佛說罪福報應經』であり、宋元明三版はいずれも「佛說」の後に「輪轉五道」の四字が加わっている (T17n0747-563b)。説法者は佛陀であり、佛陀は迦維羅衛國釋氏精舎中に於いて、阿難との問答を通して、天地萬物の宿命因縁について説法を進めていく。内容は佛と阿難との對話によって構成されている。

一方、『太上説轉輪五道宿命因縁經』は『正統道藏』洞神部 (DZ647⁵) に収録され、また『道藏輯要』尾集一にもテキストがある。内容は『罪福報應經』を模倣しており、太上老君が迦維羅衛國精舎中において、諸仙との問答を通して、天地萬物の宿命因縁について説法をするという内容になっている。字句についても、兩經は韻文を含め多くが一致する。ただ、『佛說(輪轉五道)罪福報應經』(以下、必要の無い限り『佛說罪福報應經』と略す)が「阿難」と「佛」との問答のみであるのに対し、『太上説轉輪五道宿命因縁經』は説法主として「太上老君」以外に「左玄真人」「天尊」「道」等の神格が登場し、より複雑になっている。

兩經は共に一卷本であり、體裁も佛典に所謂「序分」「正宗分」「流通分」に分けることができる。今、説法の主体が複数いる『太上説轉輪五道宿命因縁經』に沿って内容を三分から概観したい。

【序分】

迦維羅衛國精舎と舎衛國祇樹下給孤獨園⁶の間には「尸俱類⁷」という大樹があり、人民がこの樹の果実を食すと衆病はおのずと癒え、耳目は精明になるという。九月の長齋の後、太上老君⁸はこの樹下に座し、諸天仙・地仙・仙童・玉女等一千二百五十人⁹はその果実を食して太上の説法を聞く。

【正宗分】

左玄真人が諸仙に告げて¹⁰提起した天地萬物の宿命因縁の問題について、太

4 小野玄妙編『佛書解説大辭典』(大東出版社, 1933-1935年) 参照。

5 經典番号はKristofer Schipper, *Concordance du Tao-tsang*, Titres des ouvrages (《道藏通檢》Paris, 1975) に依る。

6 佛典を模倣した道教經典は多いが、佛名・菩薩名・説法場所などは道教世界のものに変えられるのが一般的であり、ここの「舎衛國祇樹下給孤獨園」のような例は稀である。

7 《佛說罪福報應經》は「尼拘類」に作る (T17-562b15)。榕樹(ガジュマル)のこと。サンسكريットでは“nyagrodha”と読む。《中本起經》に見える。また「尼俱類樹」(長阿含經)・「尼拘盧樹」(大智度論)・「尼拘律」(四分律)等とも漢譯される。

8 『佛說罪福報應經』は「佛」に作る (T17-562b12)。

9 『佛說罪福報應經』は「千二百五十比丘」に作る (T17-562b13)。

10 『佛說罪福報應經』は「佛告阿難」に作る (T17-562b18)。

上老君が尸俱類樹に擬えて説法を始める。太上老君は、人が小さな善行を爲せば、その因はこの樹のように次第に大きくなり、實を無限に収穫できると言い、その例として「人の今生に世に在りて、豪貴なること帝王・國主・諸侯・方伯と爲らば、此の人 先身は禮拜三寶中従り來たる。」「今身に人と爲り大富となり、財物無量なる者、此の人 先身は布施中従り來たる。」等、過去と現在について十種の善因善果を挙げる。

次いで、「今身に人と爲るも醜陋なる者、此の人 先身に嗔恚を喜ぶが故なり。」「今身に人と爲るも知らるる無き者、此の人 先身に學問せざるが故なり。」等、過去と現在について一三種の悪因悪果の例を挙げる。

同様に過去現在未來三世の因果について合計六四種の因果の例を挙げる。

【流通分】

太上老君と左玄真人は諸仙に対して¹²、焼香・然燈・齋戒・誦經などの善行を行い精進に努めるべきことを説き、次のような頌を詠む。

賢者好く布施すれば、天神^{みずか}^{たす}¹³自ら將を扶く。

一を施さば萬倍を得、安樂にして壽命長ず。

今日善を施すの人、其の福量る可からず。

皆な當に仙道を得て¹⁴、諸十方を度脱すべし。

最後に太上老君は本經を『五道輪轉宿命因緣報應經¹⁵』と名付け、善男子善女人にこの經を誦詠し宣傳するよう勧め、左玄真人・諸仙等は歡喜し稽首して去る。

11 『佛說罪福報應經』は「爲人豪貴國王長者、從禮事三寶中來」に作る (T17-562b18)。以下の体裁も類似している。

12 『佛說罪福報應經』はここを佛から阿難および比丘等への言としている (T17-563a17)。

13 『佛說罪福報應經』の高麗版は「天人」に作り (T17-563b1)、三版は「天神」に作る (T17-564b23)。

14 『佛說罪福報應經』は「佛道」に作る (T17-563b4)。

15 『佛說罪福報應經』は、經名について經文中で高麗版は「此經名爲五道輪轉罪福報應」(T17-563b9) とし、三版は「此經名爲輪轉五道、亦名罪福報應」(T17-564c10) としている。

二、兩經典の成立時期

『五道輪轉罪福報應經』は他の道教文献内でほとんど引用されることがなく、その成立時代を特定するのは難しいが、先述のように明らかに佛教經典の『佛說罪福報應經』の影響を受けたものであり、この点から検討することが可能である。

二一、『佛說（輪轉五道）罪福報應經』の譯者

一般に、『佛說（輪轉五道）罪福報應經』の現行テキストは劉宋の元嘉一二年（435年）に廣州に到着した求那跋陀羅（394-468年、中インド人）の譯出とされているが、事実については検討の余地がある。また歴代の佛典目録には、求那跋陀羅譯とされる『罪福報應經』と、失譯とされる『輪轉五道罪福報應經』の二つの經典名が掲載されており、先にこれらの点についての考證が必要である。

現在、『佛說（輪轉五道）罪福報應經』は『大正新修大藏經』第一七冊に収録されているが、文字の異同が多いため、高麗版の宋于闐國三藏求那跋陀羅譯『佛說罪福報應經』（T17-562b）と、明版を底本とし宋版・元版と對校した劉宋三藏法師求那跋陀羅譯『佛說輪轉五道罪福報應經』（T17-563b）とに分けられている。四版は全て求那跋陀羅の譯出とし、宋元明三版は經題冒頭に「轉輪五道」の四字を附す。高麗版はこの四文字を附さないが、經文中で本經の名称に言及して「此の經、名づけて五道輪轉罪福報應と爲す¹⁶」として「五道輪轉」の四字を加えている。歴代の經錄中における『罪福報應經』と『輪轉五道罪福報應經』の掲載状況は以下の通りである。

一、（梁）僧祐撰『出三藏記集』（天監九一七年 [510-518年] 成書）

卷四、新集續撰失譯雜經錄第一「五道輪轉罪福報應經一卷」（T55n2145-30a28）

二、（隋）法經等撰『衆經目錄』（開皇一四年 [594年]）

卷三、小乘修多羅藏錄第二、衆經失譯「輪轉五道罪福報應經一卷」（T55n2146-131b22）

三、（隋）費長房撰『歷代三寶紀』（開皇一七年 [597年]）

16 前注15參照。

卷一〇、宋世錄、求那跋陀羅の譯經錄¹⁷「罪福報應經一卷」(T49n2034-91c5)

卷一四、小乘修多羅失譯錄第二「輪轉五道罪福報應經一卷」(T49n2034-117b22)

四、(隋)彦琮等撰『衆經目錄』(仁壽二年 [602年])

卷一、小乘經單本「輪轉五道罪福報應經一卷」(T55n2147-155a29)

五、(唐)道宣撰『大唐內典錄』(麟德元年 [664年])

卷四、宋朝傳譯佛經錄、求那跋陀羅の譯經錄「罪福報應經」(T55n2149-259a18)

卷七、小乘經單重翻本並譯有無錄「罪福報應經(五紙、一名分別業報經)、業報差別經(十五紙、上二經同本別出)隋開皇年曇法智譯」(T55n2149-298b3、他に同書309c2・322b20参照)

卷七、同上「輪轉五道罪福報應經(四紙)」(T55n2149-300a10)

六、(唐)靜泰撰『衆經目錄』(麟德二年 [665年])

卷一、小乘經單本「輪轉五道罪福報應經一卷(四紙)」(T55n2148-187c10)

卷二、小乘經重翻「罪福報應經一卷(一名分別業報經、五紙)、業報差別經一卷(十五紙)隋開皇年曇法智譯、右二經同本異譯」(T55n2148-194b21)

七、唐明佺等撰『大周刊定衆經目錄』(天册萬歲元年 [695年])

卷九、小乘重譯經目「罪福報應經一卷(一名分[五紙¹⁸]別報應經)、右宋文帝代求那跋陀羅於荊州新寺譯、長房錄に出ず。業報差別經一卷(十五紙)、右隋開皇年曇法智譯、內典錄に出ず。上二經同本別譯」(T55n2153-431c26、他に同書469c2参照)

卷一一、小乘失譯「輪轉五道罪福報應經一卷(二紙)」(T55n2153-442a28、他に同書470a15参照)

八、(唐)智昇撰『開元釋教錄』(開元一八年 [730年])

卷五、總括群經錄、求那跋陀羅の譯經錄「罪福報應經一卷(一名輪轉五道罪福報應經、亦た輪轉五道經と云う、亦五道輪[轉¹⁹]經と云う。房云う、別錄に見ゆと)」

17 《歷代三寶紀》には「右七十八經合一百六十一卷。文帝(劉義隆、424-453年在位、筆者注)世。中天竺國三藏法師求那跋陀羅、宋言功德賢。善大乘學、時人亦稱為摩訶乘。亦云衍。元嘉十二年(435年)來至揚都、帝深崇敬。」(T49-92a14)とある。

18 宋元明三版はこの二字を缺く。

(T55n2154-528b9)

卷一三、有譯有本錄中聲聞三藏錄「罪福報應經一卷（一名輪轉〔轉輪²⁰〕五道罪福報應經）、宋天竺三藏求那跋陀羅譯（右、大周錄中に更に輪轉〔轉輪²¹〕五道罪福報應經一卷有り。今ま文句を檢尋するに、此と殊ならず。但だ名題を立つるに廣略異なり有るのみにして、文既に別無し。但だ一本を存するのみ）」(T55n2154-617b13、他に本書664b27・693c28・698b17・718b1参照。)

九、(唐)圓照撰『貞元新定釋教目錄』（貞元一六年〔800年〕、開元錄を踏襲）

卷七、總集群經錄、求那跋陀羅の譯經錄「罪福報應經一卷（一名輪轉五道罪福報應經、亦た輪轉五道經と云う、亦た五道輪經と云う。房云う、別録に見ゆと）」(T55n2157-825b2)

卷二三、有譯有本錄中聲聞三藏錄「罪福報應經一卷（一名輪轉五道罪福報應經。右、大周錄中に更に輪轉五道罪福報應經一卷有り。今ま文句を檢尋するに、此と殊ならず。但だ名題を立つるに廣略異なり有るのみにして、文既に別無し。但だ一本を存するのみ）」(T55n2157-950b17、他に本書1002b17・1041c6・1046c17参照)

先ず、『出三藏記集』には「罪福報應經」の名は収録されておらず、失譯（譯者不詳）雜經の一つとして「五道輪轉罪福報應經」が収録されている。卷一に一三部挙げられている求那跋陀羅譯出經典の中には該當する書名は見当たらない。次の法經錄において「五道輪轉罪福報應經」の記載は「輪轉五道罪福報應經」に変わるが、やはり「罪福報應經」の書名は見えない。彦琮錄も法經錄を踏襲している。『歴代三寶紀』の求那跋陀羅の譯經リストにおいて初めて「罪福報應經」の名が現れ、それとは別に小乘失譯經の「輪轉五道罪福報應經」も舊來の經錄を踏襲し入録している。『大唐内典錄』も「罪福報應經」を求那跋陀羅の譯出とした上で、さらにその別名が「分別業報經」であること、法智譯「業報差別經」と同本別譯であると指摘している。しかし、現在、隋の瞿曇法智譯『佛（爲首迦長者²²）說業報差別經』（T1n0080-891a）が現存するが、現存の高麗版『佛說罪福報應經』とも宋元明三版の『佛說輪轉五道罪福報應經』とも内容が全く異なり、同本別譯とは考えられない。靜泰錄・武周錄も内典錄を踏襲している。更に、

19 元明二版には「輪」字有り。

20 宋元明三版は「轉輪」に作る。

21 明版は「轉輪」に作る。

22 宋元明三版は「爲首迦長者」の五字を缺く。

『開元釋教錄』において、それまで失譯の別の經典とされていた「輪轉五道罪福報應經」が求那跋陀羅「罪福報應經」の別名とされ、兩經典は題名には廣略の異なりがあるが、内容は同じであると説明される。貞元録もこの説を踏襲する。

『歴代三寶紀』は史實を偽った記述の多い經錄であり、ここで初出の「罪福報應經」は譯者を求那跋陀羅に假託した經典である可能性が高い。一方、「輪轉五道罪福報應經」は既に『出三藏記集』から入録しており、梁以前から失譯經典として存在していたことはほぼ確實である。しかも現存の『佛說（輪轉五道）罪福報應經』は内典録が「罪福報應經」の同本異譯とする法智譯の『業報差別經』とは内容が異なる。つまり、現存の『佛說（輪轉五道）罪福報應經』が求那跋陀羅の譯出とされているのは、『歴代三寶紀』の假託と、『開元釋教錄』が「輪轉五道罪福報應經」と「罪福報應經」の二經を混同したことに基づいたものであり、実際には求那跋陀羅の譯出ではなく、失譯「輪轉五道罪福報應經」を繼承したものと考えられるのである。

二一、引用文献と文字の異同

『佛說（輪轉五道）罪福報應經』の宋元明三版と高麗版とを比較すると、兩者は文字異同は比較的多いが、内容は基本的に同じである。但し大きな違いとして、「賢者好く布施すれば」で始まる五言八句の頌の後に三版には「因緣會合し誰か親と爲す」で始まる七言十六句の頌が有るのに對し、高麗版にはこの頌が無い點が挙げられる。『太上說轉輪五道宿命因緣經』は高麗版と同じく五言八句の頌は有るが、七言十六句の頌は無い。

また、唐の道世撰『法苑珠林』（總章元年〔668年〕）には「輪轉五道經に云う」として『佛說輪轉五道罪福報應經』が引用され、卷六八には本經の冒頭（T17-562b）から「衆生を殺害し慈心有る無き者、豺狼狸鷹中従り來たる」（T17-563a14）までが引用され（T53n2122-805a21、文字異同有り）、卷三三には本經の「凡そ功德を作せば皆な身に應ず」（T17-563a17）より五言八句の頌までが引用されている（T53-542a15）。三版にある七言十六句の頌は見えない。

更に、梁武帝の天監年間（502-519年）に撰せられた『慈悲道場懺法』卷三「顯果報」の「所以に經に言う、人の豪貴・國王・長者と爲るは、禮事三寶中従り來たる」（T45n1909-932b17）から「人の慈心無きは、虎狼中従り來たる」（T45-932c20）まで引用される因果應報説は、經典名こそ挙げられないものの、明らかに『太上說轉輪五道宿命因緣經』の前半部分を引いている。

では、道教經典の『太上說轉輪五道宿命因緣經』の『道藏輯要』本（蔣豫蒲本と重刊

本²³) および道藏本と、これら佛教經典『佛說(輪轉五道)罪福報應經』の四版および引用文献との間に存在する文字異同を比較してみたい。本稿末尾の【表】を参照していただきたい。道佛兩經典間の異同は多数あるので、本表では一六例のみを取り上げた。

較べてみると、まず、『太上説轉輪五道宿命因緣經』の『道藏輯要』本と『道藏』本とでは、蔣豫蒲本と『道藏』本との間には異同が比較的少なく、一方、『重刊道藏輯要』本は他より若干異同が多い(例5、12、13)。次に、佛教側のテキストと比較すると、『太上説轉輪五道宿命因緣經』が最も近いのは高麗版である。梁の武帝が天監年間(502-519年)に撰した『慈悲道場懺法』は引用部分が少ない上に文字の異同も多いため(例5、6、7)、道教側テキストとの比較は難しい。また、唐の道世が總章元年(668年)に撰述した『法苑珠林』は、引用部分が比較的多く字句も類似しているが、道教側のテキストには『法苑珠林』が引用する範囲外の部分もあるため(例9)、道教側テキストが『法苑珠林』を直接参考したかどうかは判断できない。更に、大藏經本の高麗版と三版については、道教側テキストと高麗版が一致する例もあれば(例3、14)、三版と一致する例もあるが(例1、2、4、13)、先に述べた七言十六句の頌の有無(例16)やその他の字句の有無(例7、10)から考えて、道教側テキストが参考にした佛教側テキストは高麗版が最も近いと判断できる。

高麗版の原型は北宋の一切經にある。年代が最も早い『慈悲道場懺法』と、梁の僧佑が天監九年から一七年(510-518年)にかけて撰した『出三藏記集』に著録される「五道輪轉罪福報應經」とが現『佛說(輪轉五道)罪福報應經』の当初の姿に近いとすれば、それが唐から北宋の間に高麗版のような形に編集され、その後、『太上説轉輪五道宿命因緣經』がこの段階のテキストを参考にして成立したと考えられるのである。

三、今後の課題

本稿は佛教經典の『佛說罪福報應經』と道教經典の『太上説轉輪五道宿命因緣經』との鏡像関係について、主に以下の二点について検討した。第一点目は、『佛說罪福報應經』

23 垣内智之・池平紀子「道藏輯要版本考」(『『道藏輯要』と明清時代の宗教文化』研究成果報告書)平成20年度～平成23年度科學研究費補助金基盤研究(A)、課題番號:20242001、研究代表者:麥谷邦夫、271-442頁、2012年3月。<https://researchmap.jp/ikehira>。中国語版は何建明主編『道教學刊』2019年第2輯【總第4期】および2020年第1輯【總第5期】に掲載、社会科学文献出版社、北京)参照。当該報告では、蔣予蒲本の以下の六種の版本を比較検討している。大阪府立中之島圖書館本・財團法人東洋文庫本・四川省圖書館本・東京大學東洋文化研究所本・京都大學人文科學研究所本・國立國會圖書館本。『太上説轉輪五道宿命因緣經』に関しては、六種はみな同一の版で文字の異同は無い。蔣豫蒲本と重刊本との間には複数の文字異同がある。

の譯者は果たして求那跋陀羅であるのかという問題についてである。本稿では歴代の經錄の収録状況から歸納的に分析し、現存の『佛說罪福報應經』が求那跋陀羅によって譯出されたと見なされている理由は、『歴代三寶紀』の求那跋陀羅への假託と『開元釋教錄』が「輪轉五道罪福報應經」と「罪福報應經」とを混同したことに起因すると判断し、それゆえ、実際には『佛說罪福報應經』は求那跋陀羅によって譯出されたものではなく、失譯の「輪轉五道罪福報應經」を継承したものと結論づけた。第二点目は、兩經典の成書年代にかかる問題である。本稿では兩經典の各種版本および引用文献を比較検討することで、『佛說罪福報應經』は梁の武帝の天監年間にはすでに存在し、一方の『太上說轉輪五道宿命因緣經』は唐から北宋以降、これを模倣して成書したと結論づけた。

ただ、本稿では兩經典の内容の核心、およびその思想史上における位置については觸れることができなかった。ジョン・ラガウェイ (John Lagerwey) は『道藏通考 (*The Daoist Cannon*)』の中で『太上說轉輪五道宿命因緣經』は『佛說善惡因果經』を模倣して成書したものと指摘している²⁴。この佛教經典は『大正新修大藏經』第八五卷古逸部に収録される疑偽經典である (T85n2881-1380b)。本文で検討したように、筆者は『太上說轉輪五道宿命因緣經』が直接模倣したのは『佛說罪福報應經』であると考えますが、しかし『佛說善惡因果經』にも確かに類似した表現は存在する。では、更に廣い視点から、過去現在未來三世の因果を主題とする佛教經典と道教經典を俯瞰した場合、この佛・道兩部の經典の宗教思想史上における位置はどのようなものであろうか。この点を今後の課題としたい。

更に、上述の課題と同時に『佛說罪福報應經』の真偽問題についても検討したい。本經にはサンスクリット本・パーリ本・チベット本のいずれも無く、譯者も求那跋陀羅の名に假託されたもので、もとは失譯經であった。筆者がかつて検討した『提謂經』と『太上老君戒經』・『佛說三廚經』と『老子說五廚經』・『佛說父母恩重經』と『太上老君說報父母恩重經』等、鏡像関係にある佛教經典と道教經典²⁵の内、佛教經典はいずれも中國撰述の疑偽經典であった。道教經典との親和性から考えて本經にも疑偽經の可能性はないか、この点についても検討の必要があると考えている。

24 Lagerwey (2004年) 參考。『佛說善惡因果經』は『大周刊定眾經目錄』卷一五、偽經目錄に初出の疑偽經典である (T85n2153-472b)。牧田 (1976年, pp336-344) 參考。

25 注1 參照。

【表】

文字異同	《佛說(輪轉五道)罪福報應經》				《太上說轉輪五道宿命因緣經》			
	《法苑珠林》所引《輪轉五道經》	高麗版《佛說罪福報應經》	宋元明三版《佛說輪轉五道罪福報應經》	道藏闡要本		道藏闡要本		道藏本
				蔣豫甫本	重刊本	蔣豫甫本	重刊本	
例1	805a23	562b15	563b26	54a6*1	54a6*1	1a7*2	枝葉方圓	枝葉方圓
例2	805a28	562b24	563c5	54b3	54b3	1b6	收子無限	收子無限
例3	805b2	562b27	563c9	54b6	54b6	2a1	顏色潔白	顏色潔白
例4	805b7	(562c5)	563c16	55a4	55a4	2b1	天薄曰、云何為慈心……此是為慈心也。	天薄曰、云何為慈心……此是為慈心也。
例5	805b24	562c18	564a5	56a3	56a3	3b6	聞人好言善語、心不樂聞、於中兩舌、亂人聽受者、	聞人好言善語、心不樂聞、於中兩舌、亂人非是者、
例6	805b27	562c22	564a10	56a6	56a6	3b10	衣不蓋形、食不供口、為人好食自贖、惡食施人者、	衣不蓋形、食不供口、若世人好食自贖、惡食施人者、
例7	805c19	563a11	(564b2)	無	57a4	5a6	為人不安諦、不能忍事者、從鬪猴中來。	今身為人言不安諦、不能忍事者、此人先身從鬪猴中來。
例8	(805c22)	(563a14)	(564b5)	無	57a8	5b1	今身生在邊方六夷國中者、……嫉他人兒孫故。	今身生在邊方六夷國中者、……嫉他人兒孫故。
例9	引用範圍外	563a14	564b5	為人短命、胞胎傷損、生世未幾而早命終。墮在三塗數千萬劫、無得竟時。	為人短命、胞胎傷損、生世未幾而早命終。墮在三塗數千萬劫。	6b2	今身為人生而短命、胞胎傷損、出世未已而早命、終在三塗數千萬劫、可得出也。	今身為人生而短命、胞胎傷損、出世未已而早命、終在三塗數千萬劫、可得出也。

例10		引用範囲外	(563a15)	無	564b6	佛言、此輩前世為人、好喜射獵……世世累劫、無有出期。	(58a4)	無	無	(6b4)	無
例11		引用範囲外	(563a16)	無	(564b6)	無	58a5	今身為人眼目眇者、……罪福如此、明可懼之。	今身為人眼目眇者、……罪福如此、明可懼之。	6b5	今身為人眼目眇者、……罪福如此、明可懼之。
例12		引用範囲外	563a22	衆邪敢當	564b16	衆魔誑除無敢當者	58b7	衆魔不敢復當	衆魔不敢復當	7b3	衆魔不敢復當
例13		引用範囲外	563b1	天人自扶將	564b23	天神自扶將	59a5	天神自扶持	天神自扶持	8a3	天神自扶將
例14		引用範囲外	563b3	今日施善人	564b25	今日大布施	59a6	今日施善人	今日施善人	8a4	今日施善人
例15		引用範囲外	563b4	度脫於十方	564b26	度脫於十方	59a6	度脫諸十方	度脫諸十方	8a5	度脫諸十方
例16		引用範囲外	(563b5)	無	(564b27)	“因緣合會誰為親”で始まる七言十六句頌	(59a7)	無	無	(8a6)	無

*1 藤豫浦本の「54a6」は『道藏輯要』尾集一所収本の「第54頁・前葉・第6行」を表す。以下同じ。

*2 道藏本の「1a7」は『正統道藏』洞神部所収本の「第1頁・前葉・第7行」を表す。以下同じ。